氏　　名	大野（おおの）　航平（こうへい）
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1262 号
学位授与の日付	2021 年 5 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	大腸 pT1 癌におけるリンパ節転移の危険因子およびSM浸潤度に着目した内視鏡治療後の追加腸切除適応基準の検討
指　導　教　員	教授　橋口　陽二郎（板橋・外科）
論文審査委員	主査　幸田　圭史　教授（ちば・外科） 副査　小田島　慎也　准教授（板橋・内科） 副査　阿部　浩一郎　講師（板橋・内科）

論文審査結果の要旨

審査論文は「大腸 pT1 癌におけるリンパ節転移の危険因子および SM 浸潤度に着目した内視鏡治療後の追加切除適応基準の検討」と題する帝京医学雑誌に掲載予定の申請者を筆頭著者とする共著論文です。自験例である pT1 大腸癌 388 例の病理所見および手術によるリンパ節転移診断を用いて、現在、大腸癌治療ガイドラインにある pT1 癌の内視鏡的治療後の追加切除に対する推奨内容が妥当かどうかを検討し、特にＳＭ浸潤度に関して、現在の 1000μｍが適切であるかどうかを他の危険因子とともに後方視的に検討した内容である。

結果は、ＳＭ浸潤距離 1000μｍ以下ではどのような他の危険因子があってもリンパ節転移はなく、ガイドラインの追加切除を要しない条件は妥当であると判断した。しかし、ＳＭ浸潤距離 1500μｍ、および 2000μｍ以内でそれぞれ検討すると、他の危険因子がなければリンパ節転移のある症例はなく、2500μｍにて初めて危険因子としてＳＭ浸潤度単独でリンパ節転移陽性であった。また、budding や脈管侵襲陽性という他の因子をいれた多変量解析においても浸潤距離は他の因子よりも弱い関連性を示すものであった。　これらの結果から筆者らはＳＭ浸潤度 2000μｍまでは、浸潤度が唯一の危険因子である場合には追加切除をしなくてもよいのではないかと考察している。

確かに、ＳＭ浸潤度 1000μｍ以上であるだけの危険因子をもとに、追加切除になる症例は実臨床では多数おり、2000μｍまで、他の因子がなければ切除が不要であるということが示されれば oversurgery を減少させることにつながるため、本研究では有意義な結論が得られている。しかしながら、本研究は一施設の 30 年以上にわたる年月の間の症例を検討した結果であり、その間には病理診断医も複数代わっていることもあり、この点では限界がある内容である。今後は多施設共同研究などで多くの症例を用いた大規模な研究ができれば筆者らの主張により強いエビデンスが与えられるものと判断する。

2021 年 4 月 2 日に行った学位論文審査会において申請者は研究内容とその意義に対する十分な理解を持っており、また臨床的にも十分な研鑽を積んでいることが確かめられたので、学位授与に値するものと判断した。